

技術分野 農水・バイオ	残留農薬の簡易迅速スクリーニング	
川嶋 文人	愛媛大学 農学部	准教授
キーワード	農薬 スクリーニング 表面抽出 簡易迅速検査 食の安全安心	
研究概要 <p> 現行の農薬分析法は一斉分析の後に個別試験法といった2段階で行われるため、結果が出るまでに1-2週間を要してしまう。そのため鮮度の問題から青果物の残留農薬分析を出荷前に行うことは困難であり、流通後に基準超過が明らかとなっても既に消費された後であることがほとんどである。過去の研究結果から残留農薬の多くは農作物表面にあることから、表面の農薬情報を簡単な農作物表面の拭き取りによってシートへ転写・濃縮し、光学的（FTIR-ATR法）に検知することにより、溶媒など一切使用せずに、非常に簡易に農作物の出荷前検査が可能である。 </p>		
従来・競合技術からの優位性 <p> 本法は現場にてわずか10分程度で検査可能であるため、従来の後追いの検査（問題発覚後で回収が事実上不可能）ではなく、流通出荷、食品加工前に検査結果が得られるため、フードチェーンにおける農薬に係るリスク（基準超過品の消費、加工品の回収とブランド信用失墜等）を回避することができる。かつこれまでの分析単価（数十万円）も数百円程度と生産現場や食品加工現場における要求に十分応えられる技術である。 </p>		
研究段階 基礎研究段階 応用研究段階 実用化検討段階 ・ 企業化段階	
応用用途 輸入品水際検査、生産品の出荷前検査、加工前の原料検査	
特許番号	
名称	